年間授業計画　新様式

高等学校　令和６年度（１学年用）　教科　　芸術　　科目　　書道Ⅰ

教　科：　　芸術　　科　目：　　書道Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　１学年　　１組～　　８組

教科担当者：（１組：蛭川乃里子　）（６組：蛭川乃里子　）（７組：蛭川乃里子　）（８組：蛭川乃里子　）

使用教科書：（ 書Ⅰ　　）

教科　　芸術　　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】芸術の多様性を理解し、効果的に表現する基礎技術を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】芸術の美しさを感受し、その伝統と文化の意味や価値、味わいを捉えられるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】芸術の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり芸術を愛好する心情をはぐくみ、豊かな生活や社会を創造してい

科目　書道Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写技能の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的技術を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し、表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			漢仮	漢	仮						
１学期	芸術科書道への関心・意欲・知識を高める。書の学習方法を理解する。書写と書道の違いを理解できる。	用具・用材とその手入れ方法 書写と芸術科書道の違い		○			【態】芸術科書道の学習に関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。 【知】書の分野、学習法など、書道で学習することを理解している。	○	○	○	8
	書の基本、姿勢、構え、執筆を理解する。墨の磨り方や濃淡、滲み、かすれの表現効果をりかいする。書体の変遷と、各書体の字形や線の特徴について理解できる。	基本姿勢、筆の持ち方等が用語と形を一致させ、書く文字の大きさにより構えの違いを身に付ける。五体字類字類の使い方、各自の姓名漢字を調べ楷・行・草の分類を理解する。		○		○	【態】芸術科書道の学習に関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。 【知】構え、筆の持ち方の名称と実際の姿勢が理解できている。 書体の変遷を理解し、五体字類の使い方と草書各自の姓名の草書を見分けることができる。	○	○	○	6
	楷書の鑑賞法・基本書法を理解し、書表現に生かすことができる。 漢字仮名交じりの書・イメージ書で、これまでの学習で知った鑑賞で理解した表現と筆法で理解した事柄を、各自のねらいに近い表現ができる。	基本姿勢、筆の持ち方等が用語と形を一致させ、書く文字の大きさにより構えの違いを身に付ける。五体字類字類の使い方、各自の姓名漢字を調べ楷・行・草の分類を理解する。		○			【知】直・側の線の表現の違いを理解している。直・側で正しく線の書き分けができる。 【思】楷書古典作品の特徴から、用筆法を理解している。 【態】書き手による書風の違いに関心をもち、それぞれの書風を主体的に言い表そうとしている。	○		○	2
	四大家の代表的な品鑑賞で時代背景、人物・書風等基本的な知識を身に付けることができる。臨書により字形、線質、点画の特徴を捉え、用筆運筆の技法を習得することができる。	直・側による線表現の特徴を知り、楷書古典作品ごとにその線質と用筆法を理解する。		○		○	【知】四大家の人物、代表作、書道史上の位置づけにつて理解している。字形・運筆の遅速等の用筆法の違いが表現できている。 【思】四大家の作品の書風の違いを理解している。 【態】唐の四大家の人物や代表作から、長く楷書の規範として尊ばれている理由を理解しようとしている。	○	○	○	12
２学期	行書作品の鑑賞と臨書により、行書法の多様性を知り、表現に迷うことなくとり入れられるよう生かすことができる。	行書書法の多様性を理解し、字形、用筆の特徴について視覚的な直観で捉え表現する。		○		○	【知】鑑賞主に文字の特徴より、視覚的な印象で行書を直観的に捉え、各自の姓名に応用する。　【思】行書を形成する表現の要素を理解している。 【態】行書に関心をもち、鑑賞から行書の特徴を意欲的に探り、表現しようとしている。	○	○	○	14
	行書古典の鑑賞と臨書をとおして、人物、時代背景、作品背景、字形、点画の筆脈、抑揚等行書の用筆運筆の技法を習得することができる。	人物、作品背景を知り、その作品の特色、行書の筆脈と抑揚、点画の連続等行書法の特徴と多様性を理解し、表現する。		○		○	【知】臨書を通して字形や線質の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を理解している。 【思】書風を的確に捉え、その美を感受している。鑑賞を通して書風とそれを形成する表現の要素を理解し、臨書に生かしている。 【態】作品に関心をもち、その美を味わおうとしている。	○	○	○	14
３学期	仮名の鑑賞と臨書通して字形や線質の特徴を捉え、用筆運筆の技法等表記に関する基礎的な知識を身につけるこたができる。	小筆の持ち方、構え、墨の磨り方と仮名を書く時の墨の適切な濃度の理解と確認。臨書により、端正な字形や平明な線がもたらす品格の高い書風を感じ取る。蓬莱切の和歌の内容と大意、変体仮名の読み方を確認する。			○	○	【知】用筆や仮名遣いの特徴等、古筆を鑑賞・臨書していくための基礎となる知識江尾りかいしている。 【思】書風を的確に捉え、その三を感受している。 【態】作品に関心をもち、その美を味わおうとしている。	○	○	○	14
											合計 70